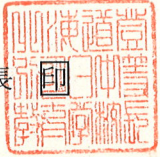


令和6年度学校評価報告書

令和7年3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道登別明日中等学校長



次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1)個性や能力の伸長に向けた、きめ細かな学習指導の充実
- (2)生徒の多様化に対応し、健康・安全教育や教育相談活動の充実
- (3)地域と保護者との連携を重視した教育活動の充実
- (4)国際理解・グローバル教育、外国語教育などを通し、外国語（英語）による思考力・判断力・表現力の育成
- (5)6年間を見通した計画的な進路指導の充実
- (6)年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○全体的に高評価が得られたが、生徒の授業評価から読み取ると旧来の教育観や授業スタイルへの不満も一定数見られる。 ○授業評価や各種調査結果は全体で共有されているが、改善策の検討には至っていない。 ○今年度は教員不足の影響で教科部会の時間を確保できなかった。また、校内研修を計画的にできなかった。	○シラバスに基づく明確な授業計画やICT活用による個別・協働学習、国際理解教育、異年齢集団教育の充実を高く評価する。 ○次年度は校内研修の自主的な実施体制の構築も提案されており、より一層の教職員の資質向上を求める。
改善方策	○「主体的・対話的で深い学び」の具体的な授業改善を示し、授業や評価方法の改善に引き続き取り組む。 ○エビデンスを基に、各教科で具体的な方策を立て、シラバス等に反映させる。 ○教科部会等を時間割上に設定し、研修や協議の機会を確保する。また、次年度は校内研修を計画的に立案し、全員でなくてもフレキシブルに参加出来るような体制を作る。	
生徒指導	○生徒指導における共通理解を深めるための資料を作成・保存した。生徒指導事故の共有について、大きな事案は日付ごとに詳細に記録した。 ○夏季略装として市販のポロシャツを導入した。 ○部活動の特例申請については、規約と顧問会議の資料の整合性が図られていない。	○高評価の維持は日頃の目配りや気配りの成果である。予測不能な事態への対応体制の継続が求められる。 ○いじめ対応のフローチャートを組織図化し、教職員に周知する取り組みも適切である。
改善方策	○生徒指導に関する記録を共有できるようにする一方、情報管理を徹底する。 ○ポロシャツについては、来年度も同様に実施する予定である。 ○部活動の特例申請については、規約と顧問会議の資料の整合性を取る方向で調整する。	
進路指導	・進路通信が発行できなかった。 ・次年度のClassi導入を検討し、授業の活用だけでなく、生徒・保護者へ連絡等の活用を一本化する。	○生徒や保護者の満足度が高く、生徒の進路実現、自己実現につながっており、頑張っている生徒の姿が伺える。 ○進路指導においては早期の自己理解と主体的な進路選択、系統的な進路指導について6年間の見通しを立てて実現に向けていくことは非常に難しいが、

		生徒・保護者は高く評価しているので、次年度も一層期待する。
改善方策	○ 考査や進路行事の前後において進路通信の発行に取り組む。 ○ 3月を移行期間としてClassiを導入し、4月から活用できる体制を作る。	
保健安全	○ 教育相談において、担当教員の柔軟な分担や、希望者制など、新たな取り組みをすることができた。 ○ 「端末を用いた健康調査・心の天気」からの面談や、いじめの把握のためのアンケート調査（5・11月）での追跡調査・面談・指導を行うことができた。	○ ピンクシャツデーなどにも積極的に参加し、自他を思いやる心を育む取組をしている。
改善方策	○ 予防的に生徒の声を拾う仕組み作りを行うことを一層充実させる。	
対外・総務	○ ホームページは各担当が行事ごとに更新し、新たにInstagramも開設した。 ○ 小学生やその保護者に対する本校の周知の在り方について工夫しなければならない。	○ 受検者数の減少について分析し、本校の良さを様々な形でアピールする仕組み作りをお願いする。
改善方策	○ 来年度は胆振管内に加え、道央圏（千歳、恵庭、北広島）へのチラシ配付を検討する。 ○ 学校案内パンフレットやポスターの内容を工夫し、積極的な生徒募集活動を行う。	
寄宿舎	○ 昨年度から寄宿舎総会を実施し、今年度も生徒の個性を尊重できるような組織作りを進めた。 ○ 完全学習時間が主体的な取組になっていない。	○ 異年齢交流を活かした、生徒間交流が良好であると評価する。また、寄宿舎の組織的な運営においても、各回生リーダーが中心となって主体的に生活改善し、SCとの連携等がなされている。 ○ 引き続き保護者が安心し、子どもたちが自己実現できるように指導をお願いする。
改善方策	○ 寄宿舎生徒・保護者・教師に開かれた寄宿舎運営を充実させる。 ○ 主体的に生徒が学習に取り組むことができる仕組みに変えていく。	
運営全般	○ 生徒・保護者の意見を踏まえながら、生徒の自己有用感、自己肯定感を育てるために、普段から教職員がどのような心持ちで取り組んでいくのかが大切である。 ○ 生徒数の減少や社会が急激に変化する中で中等教育学校の特色化をどのように出し、周知するかが課題である。	○ 登別市にとって、明日中等教育学校の存在は大きく、影響力があるので、特色ある教育活動の展開を期待したい。
改善方策	○ 「本校の学びを通して身に付けさせる資質・能力」を日々の教育実践として積み重ねていくことが大切である。 ○ AKB広報推進プロジェクト委員会を立ち上げ、生徒募集の在り方を様々な立場から意見をもらい、本校への志願者数を増やす。	
公表方法	・ 本校HP掲載 ・ 一斉メール配信等での周知 ・ PTA総会等での資料説明	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書
- (3) 三者（教員・生徒・保護者）評価の結果